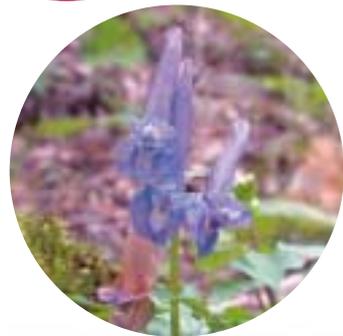


2005
春号



エゾエンゴサク



オキバナエンレイソウ



オオサクラソウ



カタクリ



ミズバショウ



コキンバイ



スマレサイシン

写真提供：秋田市在住 丹後谷 隆さん

目次

理事会報告 2		
あきた環境優良事業所 3		
「八郎湖水質改善」藤原理事提言 4		
平成17年度総会のお知らせ 4	トピックス 6 ~ 7
会員活動紹介 (株)山二 5	環境カウンセラーのつぶやき 8
会員活動紹介 市民風車の会あきた 5	お知らせ 8



理事会報告

NPO法人環境あきた県民フォーラムの平成16年度第2回理事会は平成17年1月21日(金)に、第3回理事会は2月17日(木)に、事務局のある遊学舎で開催しました。

「検討内容」

- ・17年度秋田県地球温暖化防止活動推進センター事業
- ・17年度環境あきた県民フォーラム事業
- ・17年度総会
- ・その他

17年度秋田県地球温暖化防止活動推進センター事業については、普及啓発事業としてのシンポジウムの開催について、対象年代をどこに置くか、あるいは時期をいつにするかなどの事項について検討しました。

また、温暖化防止活動推進員研修会については、17年度は県内3ヵ所で開催する方向で、研修内容について、あるいは推進員の公募についても意見が出されました。このセンター事業については、これから環境省に事業申請する運びになりますので、決定は4月以降になります。事業決定の後、理事会で詳細を検討し皆様にお知らせします。

次に、「あきた環境優良事業所認定制度」については、小西和博理事から「現在、7人の審査員が活動しているが、審査員相互の内容確認の会議を3月に予定している。仁賀保の工藤兼勝氏が由利本荘地域で説明会を独自開催しており、ありがたいことと思っている。17年度は、4月から県内の地域振興局単位の8ブロックを基本に順次説明会を開催していく予定。」という説明がありました。また、エコアクション21という環境省主導の環境マネジメントシステムとの相互認証についても、橋鏡司理事、事務局とともに検討していくことのご理解を得ました。

あきた環境優良事業所の認定審査会を年2回というスケジュールで開催しておりますが、2回の認定分をあきたエコ&リサイクルフェスティバルで認定事業所紹介として行うことに決定しました。

17年度のNPO法人環境あきた県民フォーラム総会は4月23日(土) 遊学舎を会場に行うことになりました。通信に「総会のお知らせ」を掲載してありますので、ごらんください。

その他として、山本理事長から八朗湖の水質改善について環境あきた県民フォーラムとして、横断的な働きかけをしていきたいという提案がありました。

理事の皆さんから「ソフトなかかわりであれば環境あきた県民フォーラムの活動はするべき」「20年来、いろいろな問題があってこのような状態になっている。環境あきた県民フォーラムが横断的な立場だからといって、このNPOにかかわっている体力があるのか。」「どのようにかわるかプログラムや見直しを持たないで闇雲に活動はできない。まず何ができるか考えるべき。」「海に汚れを流さないという大前提でやってきたが、田んぼで吸収浄化は不可能。それに目をつぶって今に至っている。この膠着状態を打開するのは、やはり住民運動しかない。」などのたくさんの意見が出されました。

いずれにしろ、八朗湖水質の改善は県民の願いでもあり、環境あきた県民フォーラムがこの問題に取り組む必要があると思います。何ができるか検討し動き出したいと思っています。

また、理事から、当環境あきた県民フォーラムが県内他団体や行政などと連携を取り、お互いに活動する上で協力体制が取れるように情報提供してほしいという要望がありました。事務局としてもできるだけ情報収集に努めたいと思っておりますので、これをごらんいただいている皆様方も、ぜひ情報を当事務局までお知らせください。

2月17日の第3回理事会終了後、菊地英治委員(県立大助教授)と審査員の工藤兼勝氏に出席していただき、16年度第2回あきた環境優良事業所認定審査会を行いました。

当日までに申請をいただいたステップ1:10社の書類審査報告に基づいて委員の皆様にご覧いただいた結果、協同組合という形態の違う業種での申請について、今までにない例ということで、審査員のインタビューを追加する形で認定いたしました。



それぞれの事業所で、意欲ある取組内容があり、なるほどと感心させられました。事業所内のタバコ自動販売機は、飲み物用とは違い温度管理が不要なことから、必要時のみ電源を入れるという取り組みなどは、すぐにでも取り入れられる方法と思いました。

京都議定書が発効し、大規模事業所では報告義務や管理などの規制が強まる状況にあります。秋田県の中小事業所は、この認定制度で環境保護や地球温暖化防止をがんばっていますというアピールをしていければと思います。



第2回認定審査会

あきた環境優良事業所

平成17年2月17日認定

取組目標	取組内容・方法
東光バイオテック株式会社(大館市)	
日常業務において省エネルギーに努めます。	下記のように節電に努めます。 ・休憩時間や昼休みには消灯します。 ・長時間使用しないパソコンの電源を切ります。
事務用品の使用量の低減、ごみの減量化に努めます。	ミスコピー紙の裏紙や使用済み封筒を再利用します。 使い捨て製品の購入・使用を控えます。
社用車の適正な使用により、燃費向上に努めます。	アイドリングストップに努め、普通の走行においても急発進・急加速や空ぶかしを控えます。
環境に配慮した製品を使用します。	再生紙、エコマーク製品やリサイクル製品を優先的に購入・使用します。
環境保全活動を推進します。	事業所内の清掃、整理整頓に努めます。

のしるエネルギーサービス株式会社(能代市)	
自動車の安全かつ適正な使用により燃費の向上に努めます。	秋田県の「アイドリング・ストップ宣言事業所」に登録する事により、従業員の意識向上及び燃料節約に努めます。
環境に配慮した製品を使用します。	グリーン購入・エコマーク及び秋田県リサイクル認定製品などの環境に配慮した製品の購入・使用に努めます。
日常における省エネルギーに努めます。	昼休み・休憩時及び帰宅時には、消灯するなど、節電に努めます。冷暖房の温度調節を提示して、意識を高めます。
都市ガスの普及に努めます。	化石エネルギーの中で最もクリーンな天然ガスを使用している都市ガスを普及することにより、環境保全を推し進めていきます。

東光コンピューター・サービス株式会社(大館市)	
環境に配慮したエネルギー消費に努めます。	昼休み時間や、作業者がいないスペースの照明及びパソコンの電源をこまめに切ります。冷暖房の温度管理をこまめに行います。
リサイクルを進めます。	プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めます。
省資源化に努めます。	両面コピー、両面印刷の徹底を図ります。
環境に配慮した製品の使用を進めます。	業務使用する紙を再生紙への切替を進めます。
環境に配慮した自動車の使用を努めます。	アイドリングストップに努めます。省エネ走行に努め、急発進・急加速などをしない運転に努めます。

有限会社 秋田電気管理センター(秋田市)	
日常業務における省エネルギーに努めます。	昼休みや休憩時間等必要以外は極力消灯に努めます。
ゴミの適正処理	分別容器を用意し分けて管理します。
自動車の適正な使用により、燃費向上に努めます。	アイドリングストップに努めます。信号を読み余分なフカシを避けて、経済走行に心がけ、急発進しません。
環境に配慮した製品の使用	社内の軽微な用事は備え付けのアシスト自転車を利用し、自動車をなるべく使用しません。
環境保全に努めます。	地下水を利用し、冷房、冬季の融雪、洗車等に努め、より有効な方法を研究します。オイル汚れ、グリースアップバッテリー電解液等の消耗品は、自分で管理します。

秋田県電気管理技術者協同組合【秋電(協)】(秋田市)	
省エネルギーの推進	1. 昼休みや休憩時間は消灯します。 2. 長時間パソコンを使用しない時は電源を切ります。 3. コピー機は省エネ機能付きの機種を設置します。 4. 自動車の運転は必要以上のアイドリングはしません。
ごみの減量化、リサイクル、適正処理	1. 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を遵守します。 2. 一般廃棄物の排出は秋田市の指導に従います。 3. 電線や配線器具・変圧器等の再利用に努めます。
環境保全活動の推進	1. 契約している事業所に省エネ改善の提案をします。 2. 事業所に環境優良事業所認定制度への参加を薦めます。 3. 当協同組合の環境への取組みを公開します。

自然療法整体院(由利郡象潟町)	
日常業務においてできる限り省エネルギーに努めます。	・遠赤外線全身温熱器など、電気製品を使用しない時はコンセントを抜き、節電に努めます。 ・冷房器は使用しません。 ・暖房は薪ストーブも併用します。

取組目標	取組内容・方法
ごみの減量化に努めます。	・紙の使用量を減らすため、両面コピーや裏紙の使用に努めます。 ・使い捨て製品をできるだけ購入、使用しないように努めます。 ・繰り返し使用できる容器に入った製品を購入するように努めます。
環境に配慮した自動車の使用に努めます。	・アイドリングストップを心がけ、燃料の節約に努めます。
環境に配慮した製品の使用に努めます。	・トイレトーパー、ティッシューパー等は再生紙を使用します。 ・エコマークのついた環境に配慮した製品の購入、使用に努めます。
地域の環境保全に努めます。	・事業所敷地内の清掃、整理整頓に努めます。

三和精鋼株式会社(由利郡金浦町)	
省エネルギーの推進	・昼休み、休憩時には消灯するなど節電に努めます。 ・電気製品を使用しない時は電源を切ります。
ごみの減量化、リサイクル適正処理	・使用済み用紙の裏紙や、使用済み封筒を再利用します。 ・詰め替え可能な製品を購入、使用します。 ・再利用又はリサイクルしやすい製品を優先的に購入、使用します。 ・コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めます。
環境に配慮した製品の使用	・エコマークなどがついた環境に配慮した製品を優先的に使用します。 ・リサイクル製品を優先的に使用します。
環境保全活動の推進	・事業所敷地内の清掃、整理整頓を行います。

ナチュラル社(能代市)	
省エネルギーを推進します。	・電気製品の節電に努め、使用しない時は電源を切ります。 ・冷暖房の温度管理を適切に行います。
ごみの減量化、リサイクルに努めます。	・使用済み用紙の裏紙や使用済み封筒の再利用をします。 ・ごみの分別に気を付けます。 ・古新聞、古雑誌のリサイクルに努めます。
環境に配慮した自動車の使用をします。	・アイドリングストップに取り組みます。 ・急発進、急加速を控え、タイヤの空気圧を適正にします。
環境に配慮した製品を使用します。	・再生紙、エコマーク、リサイクル製品を優先的に使用します。
環境保全活動を推進します。	・事業所内の清掃、整理整頓に気を付けます。

株式会社 ルーラル大潟(南秋田郡大潟村)	
・生ゴミの減量化 ・リサイクル	・生ゴミの水分を抜き、半減します。 ・地域のゴミ分別方法に沿って、ゴミの分別をします。 ・両面印刷により、紙の使用量を減らします。
省エネルギーに努めます。	・室内温度を適正に管理し、冷やしすぎ、暖めすぎを防ぎ省エネを実行します。 ・不用の照明を消す為、巡回を強化します。
地域の環境保全に努めます。	・事業所敷地内の清掃、整理整頓を行います。 ・地域の清掃活動に積極的に参加します。
環境にやさしい自動車の使用に努めます。	・送迎バス、営業車など、急発進・空ぶかしをしません。 ・送迎バスは、送迎人員数に合った大きさの車両を使用します。

大辰工業株式会社(由利郡象潟町)	
省エネルギーの推進	・昼休み休憩時には、食堂等の電気以外は消灯します。 ・休憩室にある「タバコ自販機」は、夜、電源を切ります。 ・冷暖房機は、終業時30分前にはスイッチを切ります。 ・工場の空調設備のファンや蛍光灯を定期的に掃除します。
ごみの減量化 リサイクル・適正処理	・福利厚生用のコーヒー機器の紙コップを廃止して、個人用のコップを使用します。 ・郵送物の用紙は、封筒やチラシの裏紙を利用します。 ・内部資料は、使用済み用紙の裏紙を使用します。
環境に配慮した製品の使用	・コピー用紙、名刺、トイレトーパー等は再生紙使用のものを使用します。 ・エコマークが付いた環境に配慮した製品を優先的に使用します。
環境保全活動の推進	・環境保全の必要性を全従業員に訴えます。 ・5S委員会を設置し、定期活動を行います。 ・マニフェスト等の記録文書を管理し、金属クズの量を監視します。

「八郎湖水質改善」

2月4日（金）の秋田魁新報夕刊に「対話／会話」として当法人の藤原儀弘理事の提言が掲載されました。

天王町にお住まいの藤原さんは、子供のころから八郎湖を原風景としてとらえており、水質改善対策を秋田県条例として制定することを提言されております。

以下、平成17年2月4日秋田魁新報夕刊掲載の内容です。

小川のメダカ、田んぼから聞こえてくるカエルの大合唱、夏休みに川で泳ぐ子どもたち、原っぱでの虫捕り、鳴く虫の音が胸にしみ入る秋の夜長、トンボ採り - 。自然とのかかわりの中で誰でも思い出があると思う「原風景」がなくなりかけています。八郎湖の水質改善対策は、守るべき大切な原風景の一つなのです。

県は、1980年の「八郎湖水質汚濁機構解明調査」以来、20年にわたって水質改善に取り組んできましたが、明確な改善の方策は見えていません。12月に開かれた「環八郎湖・流域の未来シンポジウム」は、住民参加という視点を提起しました。八郎湖には大小23ヶ所の流入河川や水路があり、生活排水や農業排水が流れ込んでいます。水質汚濁に関しては、周辺住民は被害者であり、加害者でもあることを自覚しなければなりません。

シンポジウムでは八郎湖だけを切り離してとらえるのではなく、およそ10万人という八郎湖周辺住民の生活の営みの中の「新たな水郷の創り出し」が提起されました。流入河川の上流に広がる森林、中流域の里山、下流域の水田と市街地、そして日本海への防潮水門を含めた暮らしと産業の在り方までの活用形態を切り開く - 地域の新たな展望を見だせるプロジェクトと言えるでしょう。

その特長は、住民参加と水質に取り組む熱い情熱、そして住民の提案です。流入河川が、流入負荷量の72%を占めることに着目して、水質浄化戦略の中心に位置付け、自然浄化型堰堤浄化法として木炭を入れたかごを、流入河川、及び水路の河口付近に設置しています。

昔から干潟など浅瀬の海域は、水をきれいにする自然の力を持っています。特に貝類は海水中の有機物を取り入れ、ふんなどを排出し、同時に排出された無機態の窒素やリンといった栄養塩は、植物プランクトンが利用して増殖します。このような物質循環に焦点を当て、シジミや二枚貝による水質浄化戦略を図ります。そのためには防潮水門を季節ごとに開閉することが条件になります。よって2、3kmほどの汽水地域を形成することになるわけです。貝類は淡水でも育ちますが、繁殖には一定の塩分が必要であり、塩分濃度をバランスよく保つことが大切なのです。これらは県などの稚貝放流効果を最大限活用するためにも必要な戦略です。

大局的な面からは玉川水系の鉄分を含んだ弱酸性の水を河川に通して流入させる方策も考えられます。八郎湖の汚濁の主な原因物質は窒素とリンであり、これらに鉄分をバランスよく付着させることで、ほとんどが沈殿物質となり水質浄化される仕組みです。透明度のアップも期待できます。

以上のことから、八郎湖水質改善のために、第一に周辺住民の意識改革が大切であること、そして自然再生、湖沼の生態系管理、河川の水質浄化、稲作体系の体質改善を含めた意識改革のために県条例で「八郎湖水質保全条例」の制定を提言したい。



藤原儀弘理事

平成17年度総会のお知らせ

特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラムの平成17年度総会を下記日程で開催します。

日時：平成17年4月23日（土）午後2時～

場所：遊学舎大会議室（秋田市上北手荒巻字堺切24-2）

講演：「あなたの街にも作ろう発電所と節電所～環境価値は自分たちで作り出せる！」

講師：山 求博氏（やまざき・もとひろ）

特定非営利活動法人足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ 副代表理事/事務局長

参加無料、どうぞご参加ください！

株式会社 山二 エネルギー事業部 環境開発グループ

Tel : 018-869-7151 Fax : 018-868-7555

<http://www.yamani-grp.com>



ISOマーク

秋田市の(株)山二 エネルギー事業部では、資源循環型社会の形成をサポートする「環境リサイクルシステム」を提案しています。

食品リサイクル法に関しては、生ごみ処理機によるリサイクル、それによる循環システムがあります。処理対象の生ごみ等の調査にもとづき、最適な処理方法の選択、システムの設計、導入、フォローまで一貫した形での提案を行っており、秋田市民市場にも設置されています。

建設リサイクル法に関しては、日清製粉(株)のアクセルグリーン工法(国土交通省新技術情報NETIS登録)と呼ばれるものがあります。これは河川・道路の刈草や造成工事での伐採材を現場で堆肥化するもので、従来の畜糞や菌を外部から持ち込む方法ではなく、その地場にいる微生物の活性化を促進させるので、生態系にも問題が起らず、環境にも優しい工法ということです。工法がパッケージ化されており、3~4ヵ月で簡単に堆肥加工でき、堆肥は河川公園や公共施設の花壇整備等に活用されています。

また、容器包装リサイクル法に関しては、PETボトルや廃プラスチックの「かさ」を減らす減容機システムや、いろいろな圧縮減容機を使用することにより運搬処理のコストダウンを図ることが可能です。

ほかに、家畜排泄物法に関して、畜糞堆肥化プラントの提案、さらに今後に向け、汚泥リサイクルや土壌浄化にも取り組んでいます。

省エネルギーについては、石油やガスを燃料として電気と熱(蒸気・温水)を同時に供給する「コージェネレーションシステム」を提案、導入をしています。エネルギー効率が非常に高いこのシステムでコスト低減、CO₂削減に貢献できるということです。

このような環境リサイクルシステムを提案し、企業としての立場で地球環境を"Think globally 地球規模で考え" "Act locally 地域で役立つ活動をする"をモットーに取り組んでいます。



生ごみ処理機
(協同組合秋田市民市場)



本荘子吉川・刈草の堆肥化
(アクセルグリーン工法)



PETボトル減容機 (湖南地区衛生処理組合リサイクル施設)

3月22日以降
「潟上市クリーンセンター」

会員活動紹介

自然エネルギーって?

市民風車の会あきた



パネルディスカッション



熱心な参加者

平成17年2月12日(土) 秋田市の遊学舎で「もっと知りたい! 秋田の自然エネルギー」と題して自然エネルギーセミナーが開催されました。

天王町の風車「天風丸」を建設した市民風車の会あきた主催のセミナーで、吹雪模様の悪天候にもかかわらず、60人余の参加者が熱心に自然エネルギーの話に耳を傾けました。

初めの基調講演「新エネルギー社会の到来」は十文字町出身の佐藤登氏(サムスンSDI社 常務取締役)が、本田技研で燃料電池車開発に携わった話や、現在のサムスンSDI社で取り組んでいる携帯電話やパソコンなどのモバイル用燃料電池についてなど、多岐にわたったエネルギー社会の現状について講演されました。特にモバイル用の燃料電池が、軽量化、低コスト化などのハードルをクリアすることは決して不可能ではないという力強い話でした。充電時間不要などの利便性があり、環境負荷の少ない燃料電池への期待が持たれます。

その後の事例報告では、当法人理事長の山本久博が大潟村で行っている、自身の活動、ワールドソーラーカーラリー並びにエコノムープ(手作り電気自動車省エネレース)について裏話も交えてエンジニアの育成への期待などの話をしました。

オランの会(仁賀保町バイオマス利用推進会)会長の河本祐一氏は、薪ストーブ生活の快適さを通して、森林の恵み、豊かさの質や木の文化に触れているという実践的な話をされました。

天王町に市民風車「天風丸」の建設をした「市民風車の会あきた」の八柳角弥氏は、CO₂排出ゼロの風力発電を初めとするクリーンな自然エネルギーを普及させることと、ライフスタイルを見直すことが必要と話されました。

放送大学秋田学習センター所長 澤田 雅氏は環境問題と自然エネルギーということで、雪氷利用の事例やソーラー発電、風力発電など自然エネルギー全般の現状と課題についてのわかりやすい説明をされました。

後半のパネルディスカッションでは、参加者からソーラー発電の住宅の実体験の話が出たり、一般住宅で取り組みやすい自然エネルギーについての質問が出て、化石燃料に頼らない生活について考えている人が多いことを実感しました。

寄付金をいただきました

このたび、特定非営利活動法人 環境あきた県民フォーラムは、三井住友海上火災保険(株)秋田支店(久保内俊彦秋田支店長)から寄付金をいただくことになり、平成17年1月18日、理事長 山本久博と副理事長 那須チカ子が秋田市山王の同社に伺い、130,000円の寄付金の贈呈を受けました。

三井住友海上火災保険(株)では、昨年10月から12月にかけて「みちのく環境保護プロジェクト」を行い、東北各県で環境保護問題全般に貢献のある団体に寄付することを目的に募金運動を行いました。この募金を「特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラム」と「南八幡平地区パーク・ボランティア ホシガラスの会」に寄付することに決定したとのことです。

このように評価されたことは、大変ありがたく、これからも今まで以上に環境保全や地球温暖化防止活動に取り組んでいきたいと思えます。

同社内に事務局を置くアドバンスクラブ秋田では、毎年「あきたエコ&リサイクルフェスティバル」に「エコ車検」として環境対応型自動車整備を展覧されています。自動車リサイクル法も施行された今、車検などの機会をとらえて環境保護の取り組みをされている同社の存在は、当法人にとって心強いものです。



贈呈

省資源・省エネルギー運動推進大会が開催されました！

平成17年2月3日(木) 秋田県民文化政策課主催の省資源・省エネルギー運動推進大会が秋田市の遊学舎で開催されました。

秋田県上空に居座っている寒気団のせい、かなりの悪天候でしたが、県内各地から80名余の参加がありました。

省資源・省エネルギーに関する絵手紙コンクールの最優秀賞受賞表彰式が行われた後、当環境あきた県民フォーラムが秋田県地球温暖化防止活動推進センターとして県指定を受けたことから、その役割などについて事務局 高村が紹介しました。

講演は、長谷川兼一氏(県立大学システム科学技術部助教授)が「家庭でできる省エネ対策」と題して、住宅工学から考えた省エネルギーのお話をされました。スウェーデンの住宅会社のようなところで販売したもので、断熱材をたくさん入れて壁の厚みが50センチもある保温性の高い住宅を売り出したところ、国民全体の環境意識の高い国でもあることから、即日完売したという話

にびっくりしました。気温的には札幌と同じくらい寒いところだそうですが、この住宅内は暖房設備はついておらず、電気機器の放熱、厨房の排熱などだけで十分に暖かいということを知り、これもびっくりでした。建築費用は3割程度は割高になるそうですが、これもランニングコストを考えると5年後には元が取れるということです。秋田県の木材を使って、このような住宅ができればいいなと思います。



省資源・省エネルギー
絵手紙コンクール



エコアクションコンクール



平成高校によるクリーンアップ



107号線沿いで



エコなべ うまいねえ！

高校の部の優秀賞受賞の平成高校では、通学路である107号線とその周辺地域のクリーンアップを行い、その後、いかにゴミを出さずにおいしい鍋を作れるか工夫して、環境に配慮した「なべっこ」エコなべを行っています。

クリーンアップで拾ったゴミ - なべっこで出したゴミ = クラスのポイント

という具合にクラス対抗形式にして、ポイントの一番多い順に1~3位までを表彰しました。これが相乗効果を生み出したようで、15年度に集めたゴミの量は1,607kgになったということです。

そのほか、ポイ捨て禁止の標語募集で看板を作成、107号線沿いに掲示し、地域への呼びかけをしています。楽しみながら、また、地域の人たちとふれあいながらの作業は生徒たちの心に残るものとなったようです。

「横手平鹿地域ごみゼロあきた推進会議」主催の「エコアクションコンクール」が平成16年11月18日(木) 横手市のかまくら館で開かれました。

同推進会議で環境衛生功労として環境美化に尽力された個人5人と1団体が表彰され、その後、コンクール入賞団体のうち、横手平鹿地域で環境に優しい活動をしている団体が優秀賞と奨励賞にそれぞれ4団体、企画部門奨励賞に1団体が選ばれました。

優秀賞受賞団体の活動として、アルミ缶・プルタブ回収で老人福祉施設へ車いすを贈っている吉田小学校や大森中学校、国道107号線をクリーンアップした平成高校、廃品回収収益を地域活動に充てている金沢婦人会が、それぞれ発表を行いました。いずれの団体も継続して活動していることに脱帽です。

高校の部の優秀賞受賞の平成高校では、通学路である107号線とその周辺地域のクリーンアップを行い、その後、いかにゴミを出さずにおいしい鍋を作れるか工夫して、環境に配慮した「なべっこ」エコなべを行っています。

活動報告の後、当法人副理事長 木川 弘が多岐にわたった環境の講演を行い、虫博士と呼ばれるほど虫には造詣が深いことから、温暖化等について虫を通した話で会場の皆さんに実感していただきました。

「平成16年度環境衛生功労会長表彰受賞者」

黒沢昭一(横手市) 白銀屋彦太郎(横手市)
 千田 隆(増田町) 青空子供育成会(平鹿町)
 照井理雄(大雄村) 松下亨助(大雄村)

「エコアクションコンクール入賞団体」

【実践部門】

小学校の部

優秀賞 平鹿町立吉田小学校

「アルミ缶、プルタブ回収で老人福祉施設へ贈りもの(車いす、DVD)をする運動」

奨励賞 横手市立横手南小学校

「川・水探偵団～環境に優しくするために」

中学校の部

優秀賞 大森町立大森中学校

「アルミ缶・プルタブを集めて町に車いすを贈ろう運動」
 (大森子ども会議の取り組みから)

奨励賞 横手市立横手西中学校

「鮭が遡上する横手川づくり大作戦」

高校の部

優秀賞 秋田県立平成高校

「107号線クリーンアップとなべっこ(エコなべ)」

奨励賞 秋田県立横手高校

「地域の清掃・美化活動を通しての社会参加」

一般の部

優秀賞 横手市金沢婦人会

「資源回収をして地域住民に役立てよう」

奨励賞 平鹿町吉田地区婦人会

「EM菌を使った生ごみ減量化活動」

【企画部門】

一般の部

奨励賞 育児応援誌『おもちゃ箱』

「廃油石けんで地球リサイクルを考える」

あなたもエコマイスターに！

県では、環境問題全般について学べる場として「環境あきた県民塾」を開講しています。平成16年度の環境あきた県民塾は、2月で全講座を終了し、89名の方が所定の単位を取得して修了となりました。

今後環境あきた県民塾を修了した方の中で、地域の環境保全活動のリーダーとして活動する意欲のある方を「あきたエコマイスター」として県に登録することとしています。

そこで、環境あきた県民塾の修了式とあきたエコマイスターの登録式を兼ねた「あきたの環境を考える集い」を下記のとおり開催します。この集いでは高木美保さんの特別講演も行います。環境あきた県民塾の塾生以外の方も聴講できますので、ぜひご来場ください。

また、平成17年度環境あきた県民塾の講座は5月からスタートします。多数の方の入塾をお待ちしています。入塾希望の方は県環境政策課（TEL:018-860-1602）までご連絡ください。

【あきたの環境を考える集い】

日 時 平成17年3月20日（日）13:30～16:15
 場 所 秋田市文化会館小ホール
 内 容 環境あきた県民塾修了式及びあきたエコマイスター登録式
 「あきたエコマイスター登録制度」のご案内
 秋田県地球温暖化防止キャンペーン
 特別講演（講師：高木美保さん）



下水道処理施設見学の様子（10月） 環境あきた県民塾講座の様子（1月）

ふるさと美化意見交換会



平成17年2月1日（火）秋田市の遊学舎を会場に「ふるさと美化意見交換会」が開催されました。

この会は、県内の環境美化活動の活性化について意見交換を行うため、秋田県環境あきたアクションチームが主催しました。



当日は大変な大雪でしたが、県内各地から、環境美化活動を実践している団体の方や行政関係者など24人が参加しました。また、環境あきた県民フォーラムから、アドバイザーとして木川弘副理事長が、コーディネーターとして小西知子理事が参加しました。

ふるさと美化意見交換会の様子

事例発表では、活動地域を「里子」に、世話をする会員を「里

親」に見立てる「里親制度（アダプト・プログラム）」を導入して、ごみのないきれいな町をめざす能代市の『ごみゼロ運動推進交流会議』の浅田嘉美さんと、「花いっぱい運動」を出発点に、子どもたちと一緒に地域のクリーンアップやプランターの花を育てている平鹿町の『青空子供育成会』の伊藤暉悦さんが、日ごろの活動を発表されました。地道な活動を長く続けていらっしゃることに、頭の下がる思いがします。

意見交換では、『鹿角地域米代川水系自然の会』『鷹巣町花いっぱい運動推進協議会』『小倉川を五城目町で一番きれいにする会』『子吉川市民会議』『湯沢市環境衛生組織連合会』のみなさんから、活動紹介や日ごろの思いなど、活発な発言がありました。

参加された方からは、「環境美化活動は横のつながりが薄いのが、これからは教育機関と連携してやっていきたい」「国体に向けて、また、国体後も続くように県民運動として取り組み、美しい秋田を全国に発信すべき」「今後の活動のヒントがあったように思う。みんなで一つの輪になって国体を応援して行きましょう」等、積極的な意見が多く出されました。

秋田県認定リサイクル製品を使ってみませんか

このたび、秋田県リサイクル製品認定制度の認定リサイクル製品として、45の製品が新たに認定されました。

今年度第2回目の今回は、一般廃棄物の溶融スラグを混ぜた道路側溝などのコンクリート2次製品や間伐材を利用した合板などで、第1回目の認定製品とあわせるとなんと102製品。

この認定にあたっては、事前に専門の学識経験者や消費者団体の代表者で構成される秋田県リサイクル製品認定審査委員会（会長：坂本宏 県立大学教授）で製品の安全性や規格などの審査が行われ、当フォーラムの報名理事も委員として参加しています。

認定リサイクル製品のなかには、肥料やトイレトペーパーなど私たちが普段生活するうえで使える製品もありますので、リサイクル製品の地産地消を一層すすめるためにも、ぜひ皆さんもこ

の秋田県認定リサイクル製品（下の認定マークが目印です。）を手にとって使ってみてください。

なお、認定された製品は、県環境あきたアクションチームのホームページ（<http://www.pref.akita.jp/bika/>）に掲載されています。



認証マーク



今回の認定リサイクル製品

クイズ 3 一人当たり一番多くトイレトペーパーを使っている国は？
 台湾 アメリカ 日本

環境カウンセラーのつぶやき

環境カウンセラー
中嶋 清実

「ああ～もったいない、もったいない」

朝、ゴミ袋を持って収集場所に行くと、山のようにゴミが積まれている。これらのゴミのうち、包装紙と容器の占める割合は重さで約3割、容積では6割であるという報告がある。よ～く我が家のゴミ袋の中身を見ると、生ゴミや菓子袋や食品のトレイや紙類の多いことに驚く。各家々のライフスタイルが見える。これらのゴミの中には、再資源でできないもののできるものがある。家庭ゴミのリサイクル率は、3%という報告がある。限りなく分別し再資源にまわせれば、ゴミの量は少なくなるでしょう。

さて、農林水産省が面白い調査をしている。「食品ロス統計」食べ残しの調査である。平成15年の調査結果は、1人1日あたりの食品使用量は世帯平均1,177g、食品ロス量（食べ残し）56.5g、食品ロス率は4.8%であったとの報告がある。ちなみに、外食産業（食堂・レストラン）における食べ残しの割合は、3.6%である。ところで、皆さんも経験されたこともあるでしょうが、新年会や結婚式などの宴会後の食べ残し。量が多い、お酒を飲めば食べない人などいろいろ原因があると思うが、もったいない話である。平成12年の調査結果になるが、宴会では15.7%、結婚式となると23.9%の食べ残しがある。そ

れらの残飯を養豚場で処理してもらおう所もあるらしいが、とんかつの残りを豚さんに食べさせる？変です。豚さんには迷惑です。手間と金をかけて調理した料理を捨てるのは、お金を捨てているのと同じだ。また、一般的にごみは、ごみ収集車で持って行って焼却炉で処理されるが、税金で負担しているわけだ。それもお金である。

ごみ収集日にはあんなにあったゴミ、燃やすことで見えなくしたつもりだろうがそのついで、地球が、日本が、秋田が暖かくなっている。こんな生活をしていると、「なまはげ」より怖い「もったいないお化け」が出るぞ～。



昨年9月25・26日に行われた、「第4回あきたエコ&リサイクルフェスティバル」で環境カウンセラーのブースの出店風景です。二酸化炭素が濃い空気と普通の空気では温まり方がどのように違うのかを、小さな地球儀をプラスチックの球体に入れて温度を測る実験を行いました。

新規入会のご紹介

- ・市民団体：特定非営利活動法人 秋田土壤浄化コンソーシアム（秋田市）
 - ・企業会員：(株)ルーラル大潟（大潟村）
 - 特定非営利活動法人 秋田県健康管理士会（象潟町）
- 1社、2団体が新規入会されました。今後ともよろしく申し上げます。

「あきた・ビューティフル・サンデー」のお知らせ

秋田県では、毎年、4月を「あきた・クリーン強調月間」、4月の第2日曜日を「あきた・ビューティフル・サンデー」としています。今年4月10日（日）が「あきた・ビューティフル・サンデー」です。この日はみんなで声をかけあって、自宅のまわりなど身近な場所をきれいにしましょう。



自然観察会・体験教室

秋田県環境と文化のむら

〒018-1723 秋田県南秋田郡五城目町上樋口字山田沢156-1 自然ふれあいセンター
TEL：018-852-2134 FAX：018-852-5251
ホームページ <http://www.kankyuu-bunka.jp/>
メールアドレス kan-bun@basil.ocn.ne.jp

4月24日（日）「みどりの日週間/春の女神に逢いたくて」
春の花たちをたずねながら、自然観察/高尾山（秋田市雄和）にてかけます。
集合場所：高尾山駐車場（現地集合） 午前10:00～午後2:00
「むら」からとびだして観察しよう
5月15日（日）「愛鳥週間/バードウォッチングをはじめよう」

朝の野鳥観察/新緑の雑木林で、美しい声の主をさがそう
午前8:00～午前11:30 いつもの観察会より少しだけ早起きしてください。
6月12日（日）「ようこそ トンボの世界へ」
トンボとヤゴの生活/川・池で棲み分けしているってホント？
午前10:00～午後2:00
長靴があると便利です。

対象：どなたでも参加できます。ただし、子供は保護者同伴で。
定員：各回とも30名です。
申し込み：開催日の3日前までTel018-852-2134へ。定員になり次第締め切ります。
集合場所：4月以外は、自然ふれあいセンター

入会について

あなたも参加しませんか

未来の子どものために、秋田の環境をよりよくしていこうという活動の応援団です。当法人の活動やこのフォーラム通信発行のために会費を負担していただいています。

会費

区分	社員	一般会員
企業・企業関係団体	1口：1万円 年1口以上	1口：1万円 年1口以上
個人・民間団体	1口：3千円 年1口以上	1口：1千円 年1口以上

会費納入について

秋田銀行 県庁支店 普通 560425 北都銀行 山支店 普通 6099633
郵便振替口座 02280-7-76146

いずれも特定非営利活動法人 環境あきた県民フォーラム宛です。

なお、フォーラム通信送付の都合上、銀行振込の場合は事務局にご住所、お名前をご連絡ください。

NPO法人 環境あきた県民フォーラム 秋田県地球温暖化防止活動推進センター ACCCA

〒010-1403 秋田市上北手荒巻字堺切24-2 遊学舎（秋田県ゆとり生活創造センター）内
TEL 018-839-8309 FAX 018-829-5803
Eメール mail@eco-akita.org ホームページ <http://www.eco-akita.org/>

ストップ! 温暖化

事務局から

省資源推進の大会で参加者に質問する機会がありました。9割の方が「大切なことだから少し我慢をしても省エネ、省資源に努めている」とお答えになり、やっぱり、だまっけても省エネになる、あるいは楽しんで省エネできる技や道具が必要だ...とつくづく感じました。

クイズの答え

クイズ1
クイズ2
クイズ3

トイレの後始末には水や砂を使ったりしている方法があります。日本人が一日に使うトイレトイレットペーパーを全部つなげると地球を10周以上する長さになります。また、一人が一年間に使う量は約55ロールです。トイレットペーパー使用量の順番は多い順で台湾、日本、アメリカです。日本人の場合、この20年で5倍にふえました。ちなみにティッシュペーパー使用量では日本がダントツで一位です。
出典：「発見! あなたの身近にエコマーク4」